

バルカン室内管弦楽団 東京公演2019

World Peace Concert in Tokyo 2019



2019 **5月17日**[金] 開場18:00 開演19:00
東京・第一生命ホール 晴海トリトンスクエア内

[ピースメッセンジャー]立川志の輔
[指揮]柳澤寿男
[フルート]藤井隆太
[ピアノ]ペーテル・ヤブロンスキー
[管弦楽]バルカン室内管弦楽団

ラヴェル:組曲「クープランの墓」

尾高尚忠:フルート協奏曲 作品30 a

プレミアム対談 立川志の輔×藤井隆太

ラヴェル:ピアノ協奏曲ト長調

チャイコフスキー:弦楽セレナーデ ハ長調 作品48

全自由席 一般4,000円 高校生以下2,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください

●チケットお問い合わせ

指揮者柳澤寿男後援会 090-7009-6985

toshio.kouenkai@docomo.ne.jp

[主催] バルカン室内管弦楽団日本公演2019実行委員会

[企業特別協賛] 株式会社龍角散/日野自動車株式会社

[個人特別協賛] 古屋文男

[企業団体協賛] 50音順 上野製薬株式会社/株式会社木屋製作所/佐藤製薬株式会社/株式会社塩田商会/JAWK International/株式会社晋遊舎/双日株式会社/大日本除虫菊株式会社/中央精機株式会社/中日輪船商事株式会社/東京杉並ロータリークラブ/トヨタ自動車株式会社/株式会社ブルボン

[個人協賛]50音順 井田純一郎/下隆浩/ヨシ子/西河洋一/横山英子

[助成] 独立行政法人国際交流基金

[後援] 指揮者柳澤寿男後援会/指揮者柳澤寿男諏訪後援会

[協力] 学習会音楽アカデミー/KSボランティア



© Wienfoto.wien

立川志の輔 ピースメッセンジャー

’83年、立川談志門下入門。’90年、立川流真打ち昇進。独自の視点で現代をとらえ、古典落語のみならず新作落語も創作し、多くのファンを魅了する落語家のひとりである。東京では、渋谷バルコ劇場（現在改装中、2020年オープン予定）、下北沢本多劇場、赤坂ACTシアター、六本木E Xシアターにて定期的な独演会ではこの会場でしか聞けない演目「牡丹灯籠」、「中村仲蔵」、「歓喜の歌」等を上演している。そうした活動を通じて新たな落語ファンも掘り起こしており、その実力と功績が認められ、’07年「文化庁芸術選奨文部科学大臣賞」、’15年「紫綬褒章」を受賞。テレビではNHK「ガッテン!」の顔であり、近年は龍角散のCMにも出演。今春、動物写真家・岩合光昭の初監督作品映画「ねことじいちゃん」では、初主演で映画にもチャレンジし活動の幅を広げている。

藤井隆太 フルト

3歳より故久保田良作氏にヴァイオリンを師事。11歳より故林りり子氏にフルートを師事。桐朋学園大学音楽学部及び研究科修了。小出信也氏に師事。研究科在学中に渡仏。エコール・ノルマル・音楽院で故クリスチャン・ラルデ氏に師事。レオポルド・ベラン国際コンクールで1位入賞。1985年より小林製菓、1987年より三菱化成工業を経て1995年より龍角散8代目社長に就任。2017年3月度で就任時売上上の4倍以上176億円を達成。龍角散&ヤトロン室内管弦楽団と毎年5月に開催される「龍角散ビルコンサート」に出演。2007年、同コンサートで小出信也氏とチマローザ2本のフルートのための協奏曲を協演（同社ホームページで公開中）2012年、台湾大学医学人文博物館でのコンサートで現地ヴァイオリニスト、ピアニストと共演、日本交響楽振興財団賛助会員、東京シティフィル財団評議員、厚生労働省社会保障審議会医療保険部会臨時委員、公益社団法人東京生薬協会会長、桐朋学園音楽部門同窓会副会長。

ペーテル・ヤブロンスキー ピアノ

スウェーデン人とポーランド人の両親のもと、南スウェーデンに生まれる。6歳でピアノを始め11歳でソロデビューを果たす。翌年、モーツァルトのピアノ協奏曲第17番ト長調K.453でコンチェルトデビュー。マルメ音楽アカデミーを経て英国王立音楽大学にてピアノと指揮を学び、在学中にウラディーミル・アシュケナージの目にとり、アシュケナージ指揮ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との共演でDecca からCD デビュー。1993年ロンドン、ロイヤル・フェスティヴァル・ホールでのデビュー以来、フィラデルフィア管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団、BBC交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ハンブルク交響楽団、キーロフ歌劇場管弦楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、フランス国立管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ローマ聖チェチーリア音楽院管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団ほかと共演、また、リッカルド・シャイー、チョン・ミンフン、シャルル・デュトワ、フレリー・ゲルギエフ、ヴラディーミル・アシュケナージ、エサ＝ベッカ・サロネンなど多くの指揮者と共演。CDはデッカ、ドイツ・グラモフォン、オクタヴィア・レコードからリリースされ、エジソン賞、グラモフォン賞などを受賞している。1998年にはワルシャワの秋の音楽祭で、彼に捧げられたピアノ協奏曲の初演によりオルフェウス賞を受賞。2005年6月には著しい功績を称えられ、スウェーデン国王より「リッテリス・エト・アルティプス」メダルを授与された。

柳澤寿男 指揮者・バルカン室内管弦楽団音楽監督

旧ユーゴスラヴィアを中心に活動する日本人指揮者として知られる。2005-2007年マケドニア旧ユーゴスラヴィア国立歌劇場首席指揮者。2007年、UNMIK国連コソボ暫定行政ミッション下のコソボフィルハーモニー響首席指揮者に就任。同時にサントクベテルブルグ響、ブラハ響、フラデツクラロヴェ響、西ボヘミア響、サラエボフィル響、セルビア放送響、ベオグラード国立歌劇場、ニュー響、アルバニア放送響、イスタンブール国立歌劇場などに客演。2007年、旧ユーゴスラヴィアの民族共栄を願ってバルカン室内管弦楽団を設立。2009年、コソボ北部ミトロヴィツァにおいてUNDP国連コソボ開発計画、KFOR国際安全保障部隊、コソボ警察などの協力のもと、コソボ紛争後初となる、セルビア人音楽家とコソボアルバニア人音楽家の文化交流を実現。日本の高等学校教科書「世界史A」（実教出版）、「最新図説現社」（浜島書店）に記載される。World Peace Concertを一年に一度世界各地で開催。これまでにウィーン、ジュネーヴ、ニューヨーク、東京、ベオグラード、サラエボなどで開催し、諏訪内晶子（ヴァイオリン）、清水和音（ピアノ）、ペーテル・ヤブロンスキー（ピアノ）、パスカル・ロジェ（ピアノ）、三枝成章（作曲）、玉置浩二（ミュージシャン）、八神純子（シンガー・ソングライター）、日野原重明（医師）等、平和祈念コンサートとしてジャンルを越えて共演を続けている。日本国内では新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京都響、東京響、東京シティフィル、札幌響、仙台フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、大阪フィル、日本センチュリー響、関西フィル、兵庫芸術文化センター管、九州響、アンサンブル金沢などに客演。2015年より東日本大震災復興支援のひとつとして坂本龍一監督による東北ユースオーケストラの指揮者を務め、坂本龍一（作曲・ピアノ）、山下洋輔（ピアノ）、吉永小百合（朗読）等と共演中。柳澤寿男とバルカン室内管弦楽団の活動はこれまでにNHK Eテレ「Switchインタビュー 達人達 石井竜也×柳澤寿男」、テレビ東京系BSジャパン「戦場に音楽の架け橋を-指揮者柳澤寿男コソボの挑戦（日本放送文化大賞グランプリ受賞作品）」など数多くの番組で放送され続けている。著書に「戦場のタクト（実業-日本社）」、「バルカンから響け！歓喜の歌（晋遊舎）」。現在、バルカン室内管弦楽団音楽監督、コソボフィルハーモニー響首席指揮者。

バルカン室内管弦楽団

バルカン室内管弦楽団（以下BCO）は、2007年に日本人指揮者柳澤寿男によってバルカン半島（特に旧ユーゴ）の民族共栄を願って設立。2009年5月、コソボ北部ミトロヴィツァにおいて、UNDP国連開発計画コソボ、ABD特定対象地域プログラム、UNKT国連コソボチーム、KFOR国際安全保障部隊、コソボ警察などの協力のもと、コソボ紛争後初となる、民族混成オーケストラによる歴史的コンサートを実現。2010年、ニューヨーク国連総会に伴うイベント「バルカン・リーダーズ・サミット2010」に招かれ、バルカン各国大統領・首相を前に演奏を披露。2011年、ウィーン楽友協会ホールでの公演を実現。同年11月、UNDP国連開発計画アルバニアの協力により、ロマの子供たちとの共演を実現。このほか2009年、2012年、2014年、2016年、2018年には来日公演も果たしている。2015年にはベオグラードに於いて、World Peace Concertをスタートし、ヴァイオリニスト諏訪内晶子氏と協演。「世界市民」をメッセージとしたWorld Peace Concertは一年に一度世界各地で開催されている。2016年はジュネーヴにおいて、国連欧州本部公演（国連欧州本部、在ジュネーヴ日本政府代表部主催）とヴィクトリアホールにおいてピアニスト、ペーテル・ヤブロンスキー氏と協演。2017年は設立10周年を迎え、ウィーン・コンツェルトハウスにおいてピアニスト、パスカル・ロジェ氏と協演。バルカン室内管弦楽団は旧ユーゴ崩壊後の断絶された文化圏の貴重な橋渡しともなっており、旧ユーゴ中南部のすべての主要オーケストラから参加する首席奏者、またオーストリアやスイスなどの名オーケストラで活躍するバルカン半島出身の奏者も合流し、高い水準を持ったオーケストラとして急成長を続けている。楽団員にはこれまでに、セルビア人、アルバニア人、マケドニア人、ボスニア人、クロアチア人、スロベニア人、ギリシャ人、ブルガリア人、ルーマニア人、トルコ人などが参加。またベオグラード、スコピエ、ティラナ、プリシュティナ、ミトロヴィツァ、ズベチャン、サラエボ、ウィーン、ジュネーヴ、ニューヨーク、東京、名古屋、岡谷、松本、金沢、京都などでのコンサートを実現している。いかなる国にも本拠地を置かないバルカン室内管弦楽団は、音楽が共通の言語、共通の感覚として人々の心を繋いでいくことを強く願っている。

[バルカン室内管弦楽団日本公演2019を応援する会] 50音順・敬称略

逢沢一郎 日本セルビア友好議員連盟会長

明石 康 公益財団法人 国立京都国際会館理事長

大島賢三 元国連事務次長（人道問題担当）、元国連大使

近衛忠輝 日本赤十字社社長

塩崎恭久 日本スロヴェニア友好議員連盟会長

柴 宜弘 東京大学名誉教授、城西国際大学特任教授

角崎悦子 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事

角崎利夫 元在セルビア・モンテネグロ日本国特命全権大使

徳川家広 徳川記念財団理事、作家、徳川宗家19代にあたる

水野 清 前在東京マケドニア名誉総領事

美根慶樹 元在ユーゴスラヴィア日本国特命全権大使